

乳幼児期の貧困の把握に関する
アンケート調査結果
【施設長・管理者向け】

【本件に関する問合せ先】

TEL : 080-6895-5796

Mail : info@fb-kyougikai.net

担当者：米山広明（認定 NPO 法人フードバンク山梨プログラム・オフィサー、
一般社団法人全国フードバンク推進協議会事務局長）

2018 年 4 月 13 日
認定 NPO 法人フードバンク山梨

本調査は仲田育成事業財団の助成により実施しました

目次

I. 調査の背景と目的	1
II. 調査の概要	2
1. 調査方法と回収状況	
2. 主な調査項目	
3. 調査結果を見る際の注意事項	
III. 調査結果の概要	3
IV. 考察	20

I. 調査の背景と目的

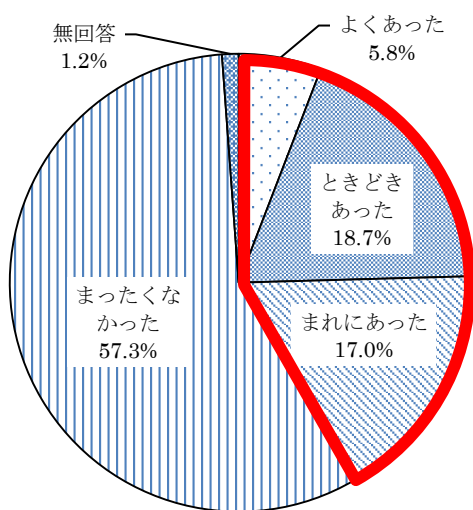
1. 調査の背景

日本における子どもの貧困率は13.9%（約7人に1人）。人数にすると実に280万人以上の子どもが貧困状態にあるとされています。また、母子家庭の貧困率54.6%と先進国の中でも最悪の水準となっています。このような事態を受けて「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が2014年1月に施行され、国をあげて子どもの貧困対策を総合的に推進していく方向性が示されています。

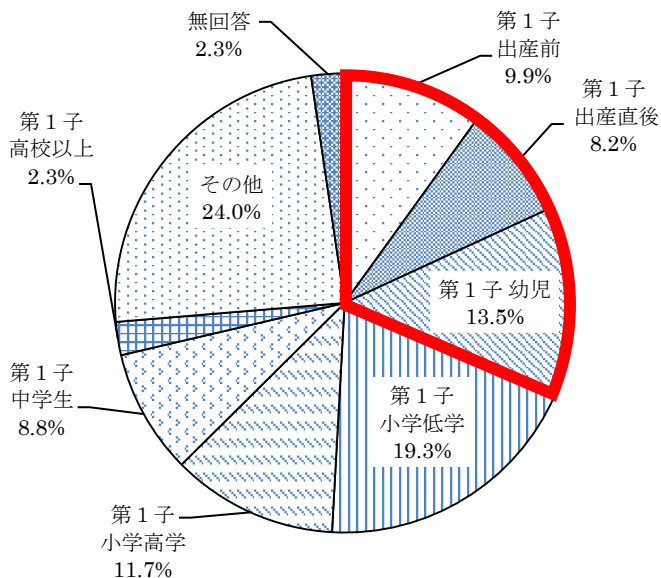
2016年に認定NPO法人フードバンク山梨が食料支援をしている546世帯を対象に実施したアンケート調査で、ミルクやオムツが不足したことがある家庭は、調査対象世帯のうち41.5%でした。（図A）

また、経済的に苦しいと感じるようになった時期については、「第1子出産前」、「第1子出産直後」、「第1子が幼児の頃」を合すると54名（31.6%）であり、回答者の約3割が比較的早い時期から生活困窮状況にあり、母親の妊娠・出産期、子どもの乳幼児期からの早期把握、早期支援の必要性が明らかになりました。（図B）

図A. オムツやミルクが不足した経験



図B. 経済的に苦しいと感じるようになった時期



2. 調査の目的

本調査は、上記調査により明らかになった乳幼児期の貧困の実態を把握することを目的としています。

II. 調査の概要

1. 調査方法と回収状況

調査協力者：山梨県保育協議会、長崎大学小西祐馬准教授、一般社団法人全国フードバンク推進協議会

調査対象：山梨県内の保育施設の施設長・管理者

調査方法：山梨県保育協議会からアンケート調査票を保育施設に郵送。保育施設の施設長または管理者が回答した後、認定 NPO 法人フードバンク山梨に郵送し回収。

調査期間：2017 年 12 月 1 日～12 月 31 日

表 1. 回収状況

調査対象施設数	有効回答数	回収率
222	139	62.6%

2. 主な調査項目

- (1) 施設概要
- (2) 回答者の属性
- (3) 子どもの貧困への対応

3. 調査結果を見る際の注意事項

- (1) 本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。
- (2) 不明（無回答・無効回答）を除いて集計しているため、n と全体の回答数には誤差があります。
- (3) 百分率（%）の計算は、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%に満たない場合や上回る場合があります。
- (4) 複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合があります。
- (5) 本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
- (6) 自由回答の記述は原則、誤字、脱字も原文のまま転記していますが、個人情報や個別の機関、団体を特定できるような情報については、一部削除している場合があります。

Ⅲ. 調査結果の概要

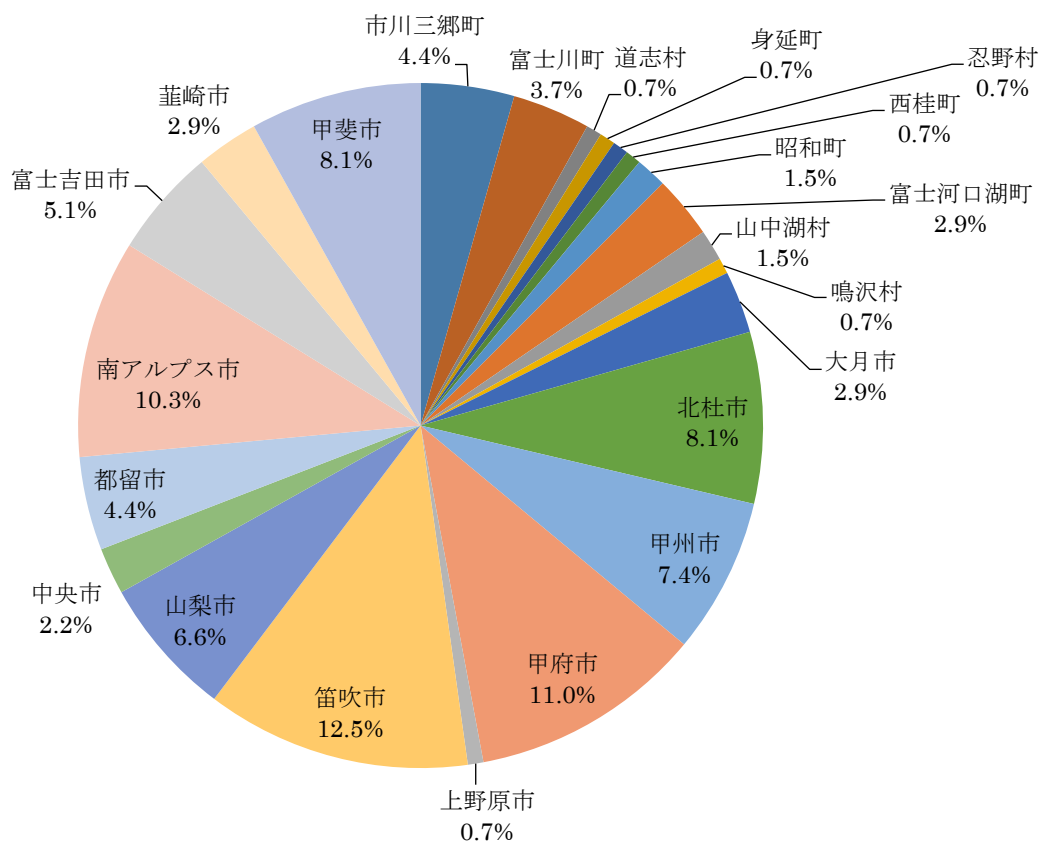
1. 施設の所在地

アンケート調査に回答した施設の所在地分布は、以下の通りとなっている。

表 2. 回答した施設の所在地分布

市川三郷町	富士川町	道志村	身延町	忍野村	西桂町	昭和町	富士河口湖町	山中湖村	鳴沢村	大月市	北杜市	甲州市	甲府市	上野原市	笛吹市	山梨市	中央市	都留市	南アルプス市	富士吉田市	韮崎市	甲斐市
6	5	1	1	1	1	2	4	2	1	4	11	10	15	1	17	9	3	6	14	7	4	11

図 1. 回答した施設の所在地分布

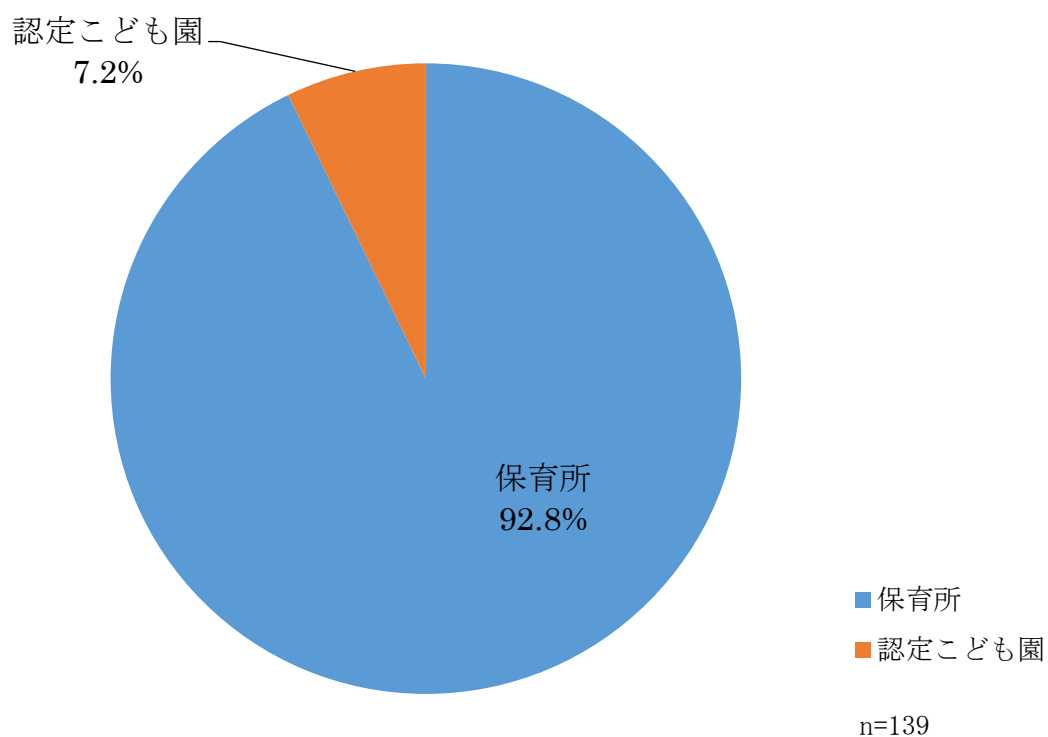


n=136

2. 保育施設の種別

保育施設の種別については、「保育所」が 92.8%、「認定こども園」が 7.2%となっている。

図 2. 保育施設の種別

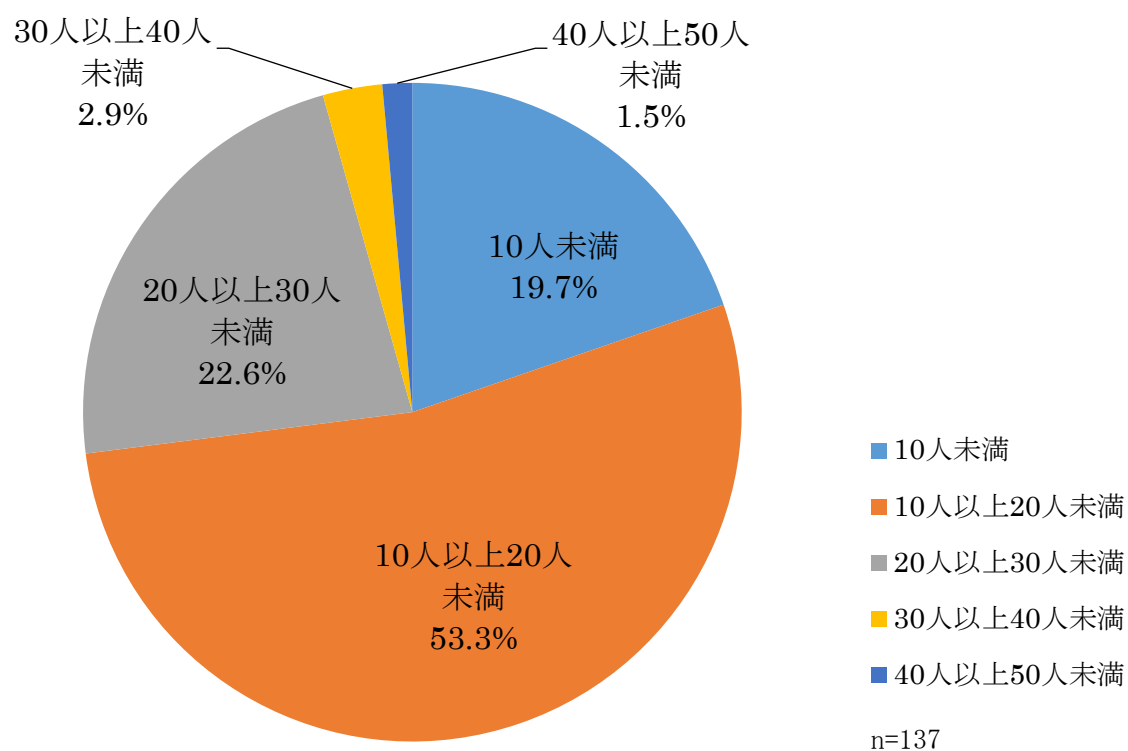


3. 保育士・保育教諭の数

保育士・保育教諭の数については、「10人以上20人未満」が53.3%と最も多く、ついで「20人以上30人未満」が22.6%、10人未満が19.7%となっている。

また、調査対象の保育施設に勤務する保育士・保育教諭の合計人数は2072人となっている。

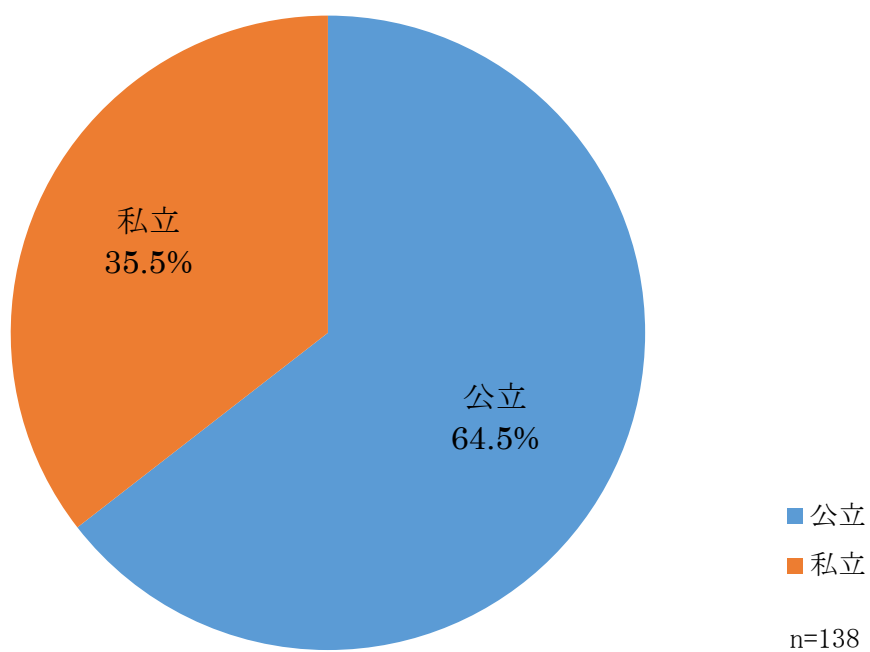
図 3. 保育士・保育教諭の数



4. 公立・私立の種別

公立・私立の種別については「公立」が64.5%、「私立」が35.5%となっている。

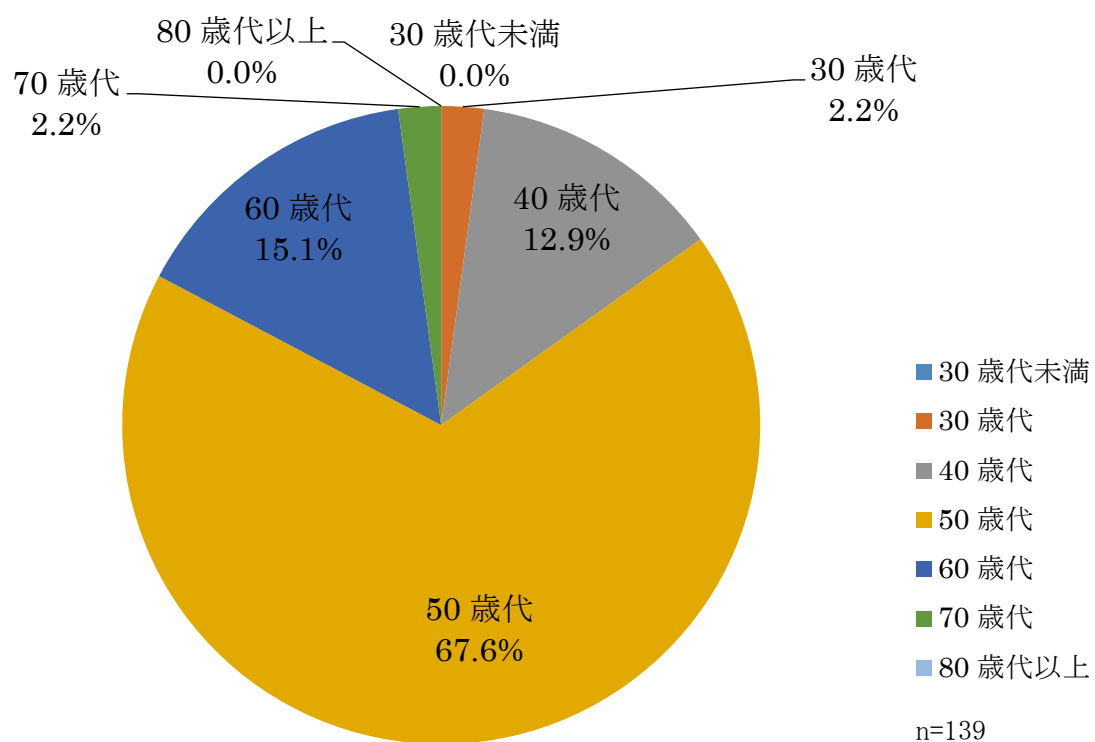
図 4. 公立・私立の種別



5. 記入される方の年代を教えてください。

回答者の年代は、「50 歳代」が 67.6%で最も多く、ついで「60 歳代」が 15.1%、「40 歳代」が 12.9%となっている。

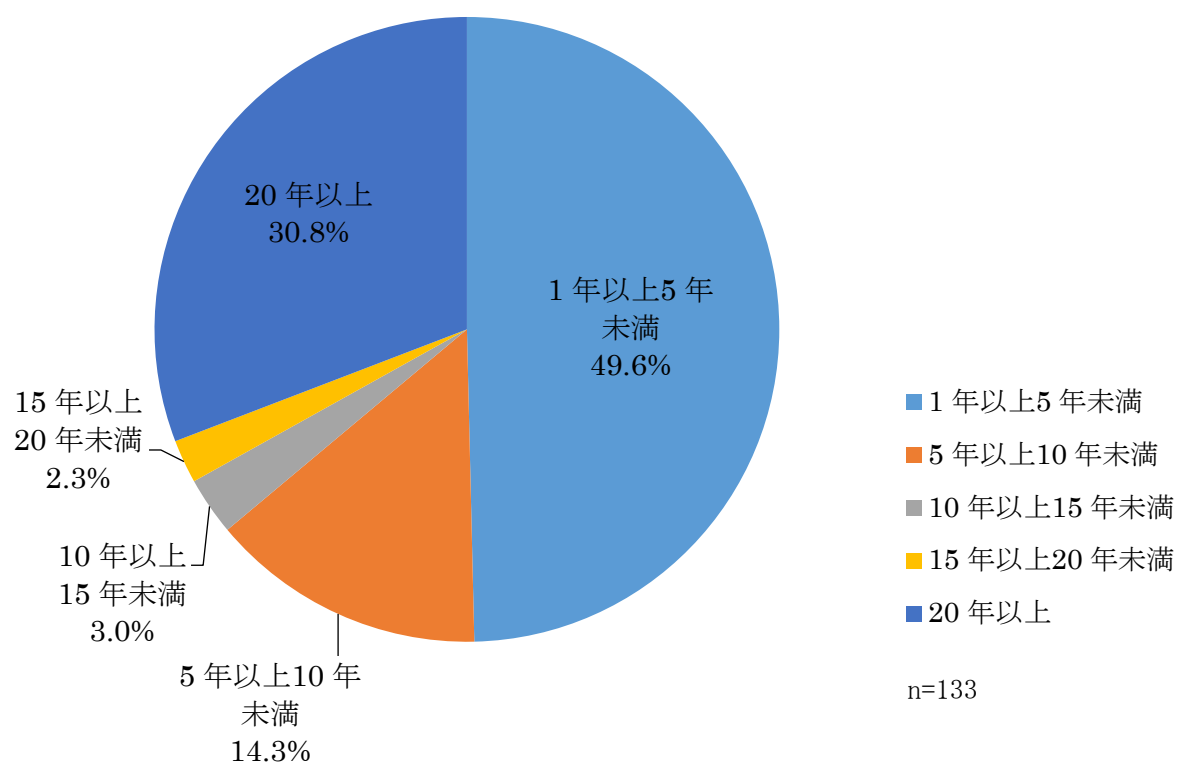
図 5. 回答者の年代



6. 現在の保育施設での勤務年数を教えてください。

現在の保育施設での勤務年数については、「1年以上5年未満」が49.6%と最も多く、ついで、「20年以上」が30.8%、「5年以上10年未満」が14.3%となっている。

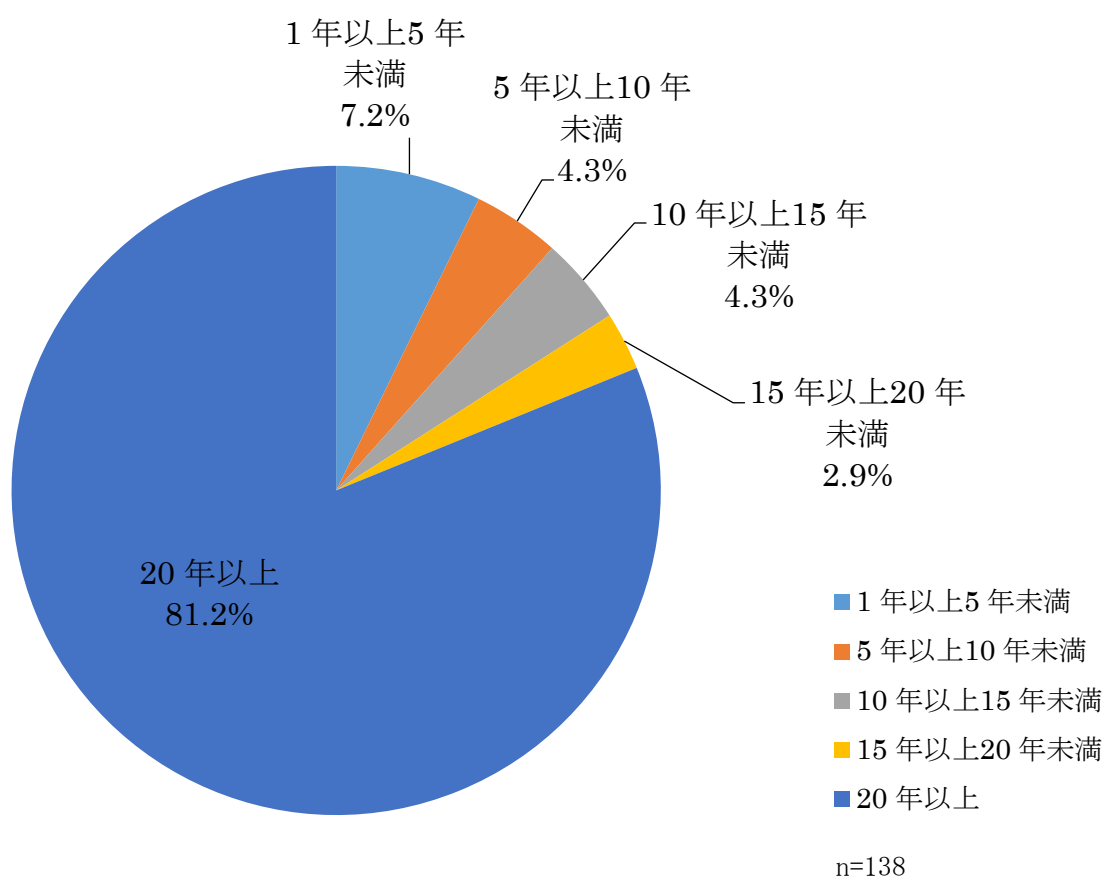
図 6. 現在の保育施設での勤務年数



7. これまでの保育施設での通算勤務年数を教えてください。

これまでの保育施設での通算勤務年数については、「20 年以上」が 81.2%と最も多く、ついで「1 年以上 5 年未満」が 7.2%、「5 年以上 10 年未満」、「10 年以上 15 年未満」がそれぞれ 4.3%となっている。

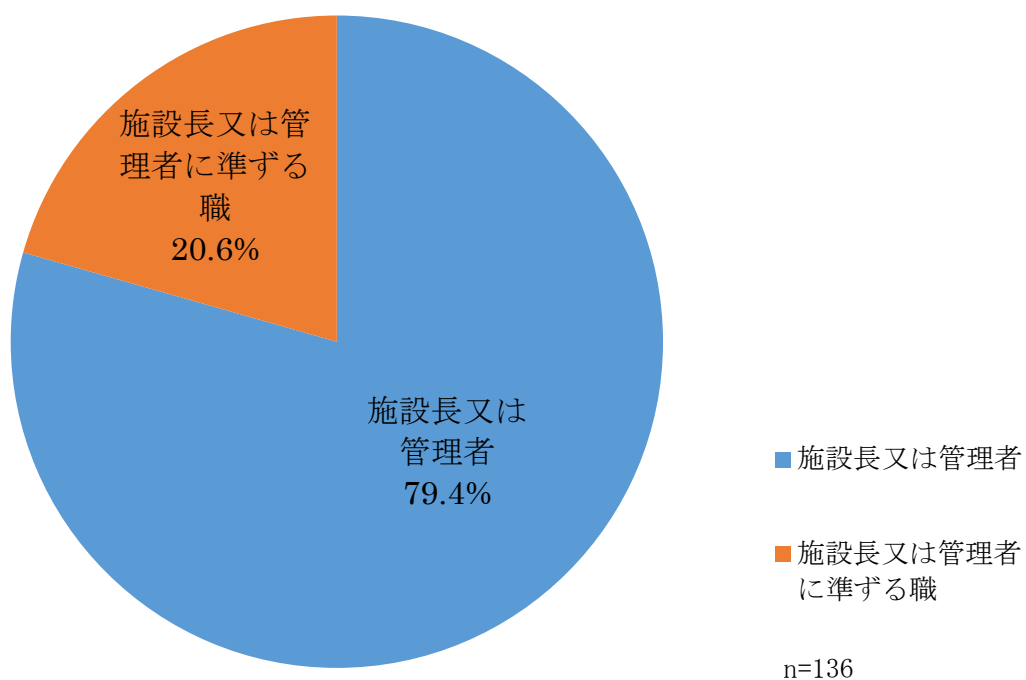
図 7. これまでの保育施設での通算勤務年数



8. 役職について教えてください。

役職については「施設長又は管理者」が 79.4%、「施設長又は管理者に準ずる職」が 20.6%となっている。

図 8. 回答者の役職



9. 貴園に通園する世帯、園児について、以下の項目を分かる範囲で教えてください。

調査対象の保育施設に通園する世帯、園児の数及び属性は以下の通りとなっている。

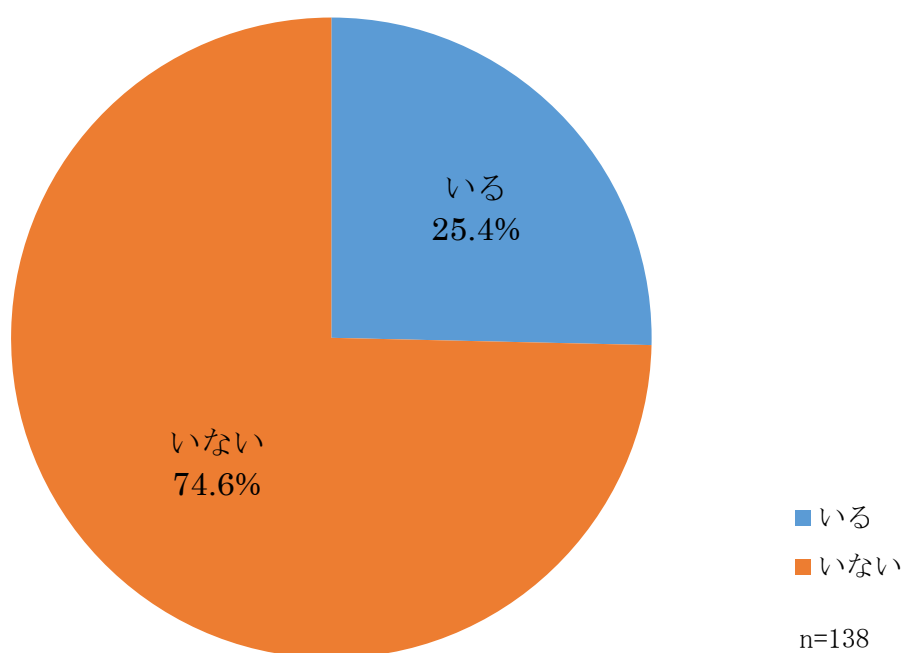
表 3. 保育施設に通園する世帯、園児の数及び属性

	合計	回答者数
①通園している世帯数	9186 世帯	N=133
②通園している子どもの数	12459 人	N=139
③通園している子どものうち、障がい（診断書・認定書）のある子どもの数	141 人	N=133
④通園している世帯のうち、母子世帯の数	861 世帯	N=137
⑤通園している世帯のうち、父子世帯の数	58 世帯	N=135
⑥通園している世帯のうち、2017 年 4 月～11 月末までの期間において、保育料を滞納したことのある世帯の数	170 世帯	N=95

10. 貴園に通園する園児の中に、貧困世帯で育てられていると思われる園児はいますか。(2017 年 4 月～11 月末の期間)

貧困世帯で育てられていると思われる園児の把握については、「いる」が 25.4%、「いない」が 74.6%となっている。

図 9. 貧困世帯で育てられていると思われる園児の把握



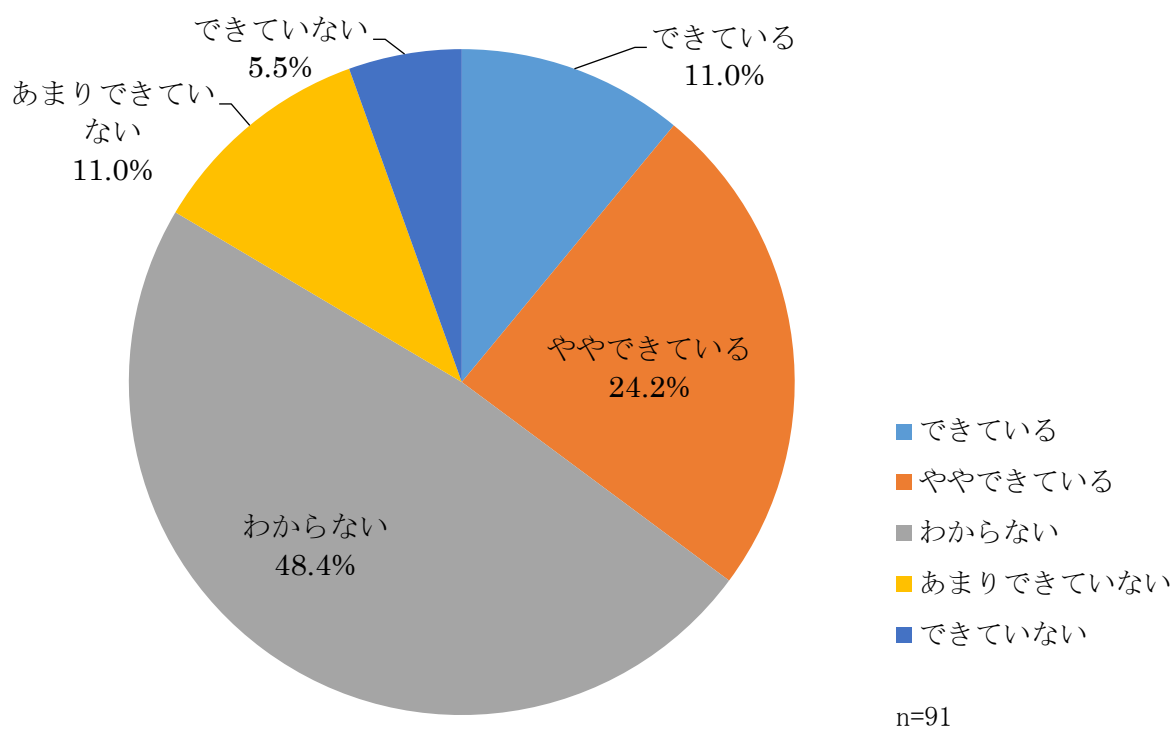
11. 前問で「いる」と回答した方のみお答え下さい。貧困世帯で育てられていると思われる園児を把握したのは、どのような場面や経緯でしたか。具体的にお書き下さい。(自由記述から一部抜粋)

- 母子世帯で入所の際、持ち物など準備が出来ないと相談にみえた時
- 着ている洋服の痛みがひどく、穴が開いていたり、破けている。服をくり返し着ている。
- 担任の先生が保育中に衣類の様子等から把握
- 保険料の滞納が続き、少額の入金もできない。家賃が滞り、引っ越しを繰り返してふみたおしている。朝ご飯を食べてこない。
- 離婚により生活していく為、母親が就業しなくてはという状況で途中入園してきた家庭。カンファレンスの中で擁護ももらえず、実家(母の父、継母、異母弟)の援助もなく、住所が決まるまで住むことだけは許されたが、食事は提供してもらえず母・父方祖母宅で食事をしている。入浴も毎日ということはなさそう。衣服についてもサイズや季節に合っていないという日頃の様子から
- 子どもの様子について保健師に相談した折、家庭の状況についての説明があった。
- 母親の話や生活の様子から感じた。子どもの話から、お誕生日のプレゼントを〇〇〇と〇〇〇100均のと話された時。衣服の小さい物や古汚れた物をいつまでも着ていることから。

12. 貧困世帯で育てられていると思われる園児を把握した際に、園として十分な対応ができていると思いますか。

貧困世帯で育てられていると思われる園児を把握した際に、園として十分な対応ができていると思いますかという設問については、「できている」の回答が 11.0%、「ややできている」が 24.2%、「わからない」が 48.4%、「あまりできていない」が 11.0%、「できていない」が 5.5%となっている。

図 10. 貧困世帯の園児を把握した際の対応



13. 前問で、「できている」、「ややできている」と回答した方にお伺いします。貧困世帯で育てられていると思われる園児を把握した際に、具体的にどのような対応策をとっていますか。

（自由記述から一部抜粋）

- ・ 諸費を支払い期間を伸ばしたり夏場シャワーを浴びたり（お風呂に入っていない時等）した
- ・ 登降園時には保護者に声をかけ現場につきさりげなく聞き、困ったことなどを尋ねる。園児については、よく観察し状況を把握し、園内で情報共有を行っている。
- ・ 金銭面において無理があった為、購入出来ないもの、参加出来ない行事（遠足など）について、出来る限り保護者の気持ちに寄り添い、園で配慮できる事においてはその園児が他の子ども達と同じように生活できるよう関わってきた。その上で、小学校や市役所・児童福祉相談所等とのケースワーク会議等に参加し、情報交換や連携を密に取りながら関わってきた。
具体的には ※遠足代金の支払方法については、相談に応じる（分割）※体育着、園服等については園の物を貸す。
- ・ 相談や時間、集金等、保育に関し柔軟に対応
- ・ 保護者とのコミュニケーションを多くとる。虐待の疑いもあったために、話を受け止めたりじっくり話をきいて行政につないできた。
- ・ 園服等は卒園児からの寄付もありとあるのでそういう世帯には貸与している。
- ・ 関係機関と定期的に本児の様子、状況について、連絡をとったり、話し合いを行いながら保育を進めた。（市役所を交え）
- ・ 行政側に連絡をとり連携会議等をおこなっていく また、保護者に対しても面談をおこなう
- ・ 普段から子どもたちの様子など行政（村の保健師、保健所担当）との連絡を密にしており、何か気になることがある場合は訪問して様子を見てもらうようにしている。

14. 前問で、「できていない」、「あまりできていない」と回答した方にお伺いします。十分な対応ができていない理由には、どのようなことが挙げられますか。（自由記述から一部抜粋）

- はっきりと貧困ということも確認できず、十分な信頼関係ができていない中で、家庭の中にあまり深く踏み込んでいくことはできないところがある。登降園時など顔を合わせた時に、声をかけるくらいである
- 貧困なのか、保護者の性格上の問題なのか、生活パターンの問題なのかが、つかみにくい。ネグレクトなのか…。汚れが気になる、気にならない等・朝ご飯を食べる習慣がなく、子どもにも菓子パンですませる。洗濯物が乾かないから…で済ませてしまう。など。
- 家庭への関与の仕方が難しい。訪問しても出てきてくれない、電話に出ない等。
- 園服やかばんなどの汚れが目立つ時、きれいに洗ってあげることくらいしかできない。経済的に厳しいのかな？と思っても、聞きにくいので、触れないですごしてしまう。
- 親の生活スタイルに口出しすると、子どもに嘘をつかせるようになる（食べていなくても食べたと言わせる）ため、あまり言えない。
- 親ごさんから言うてくることはまずないです。又、職員からも「朝ごはんを食べていないかも？」くらい話を聞くことはありますが、それ以上の対応はなにも取っていないのが実情です。
- まだ幼児の貧困問題が大きな社会問題と認知されていなく、気づかない人も多いと思う。残念ながら当園もそのひとつである。前向きに対応したい気持ちは大きい。

15. 子どもの貧困に関連して、行政や外部の専門機関と連携することはありますか。連携した事例があれば、具体的にお書き下さい。(自由記述から一部抜粋)

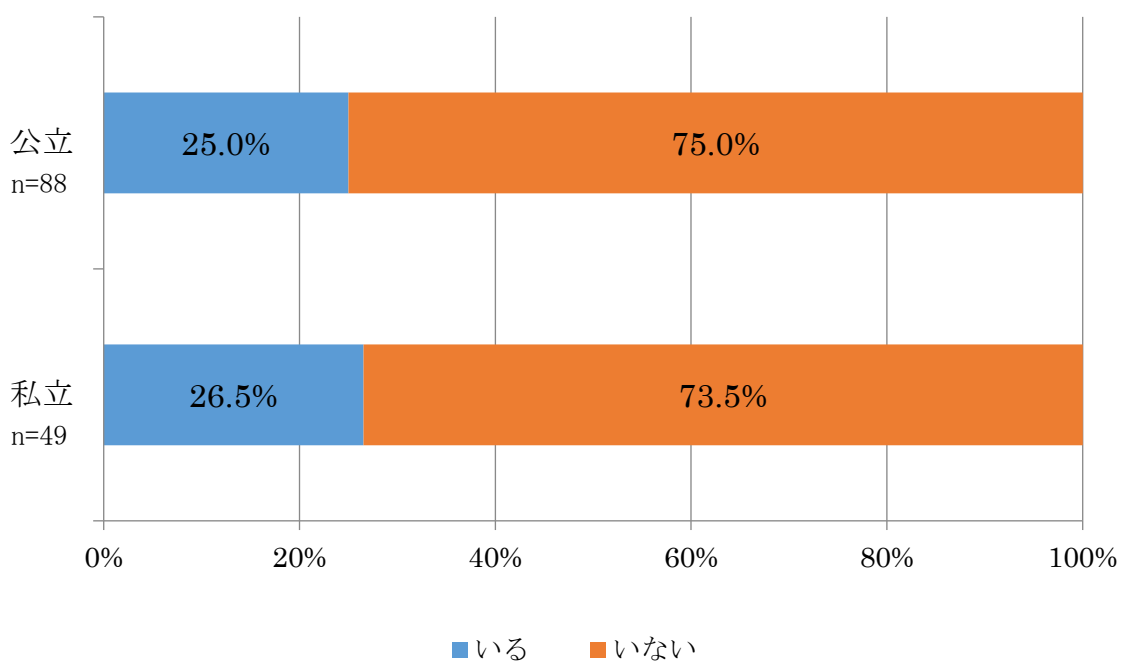
- ・ 家庭相談員、保健師等につなげる
- ・ 子ども（兄弟含む）に関係する保・小・中の職員、保健師、ケースワーカーなどの方と定期的に会議を持ち、情報の共有、すり合わせを行った事があります。
- ・ 気になる子は常に保健師と連携をとり家庭へ指導してもらったり医療機関へつなげてもらえる。
- ・ 市が介入しているご家庭は、どのような支援を誰がするのか役割を調整しています。(園からの直接の支援等をあまり望まないご家庭に、必要な衣類や用具等を一度市に寄付し、それをご家庭に提供するという形をとることもあります。
- ・ 公立なので、市からのインフォメーションでフードを集める取り組みなどについて情報が入ってきます。ですので、職員には周知する様にして、この事業の取り組みにすこしでも協力できたのではないかと考えています。

16. 公立・私立の種別と貧困の把握（クロス集計）

「公立・私立の種別」と「貴園に通園する園児の中に、貧困世帯で育てられていると思われる園児はいますか」という設問をクロス集計したところ、公立では「いる」が25.0%、「いない」が75.0%であった。

一方、私立では「いる」が26.5%、「いない」が73.5%となっている。

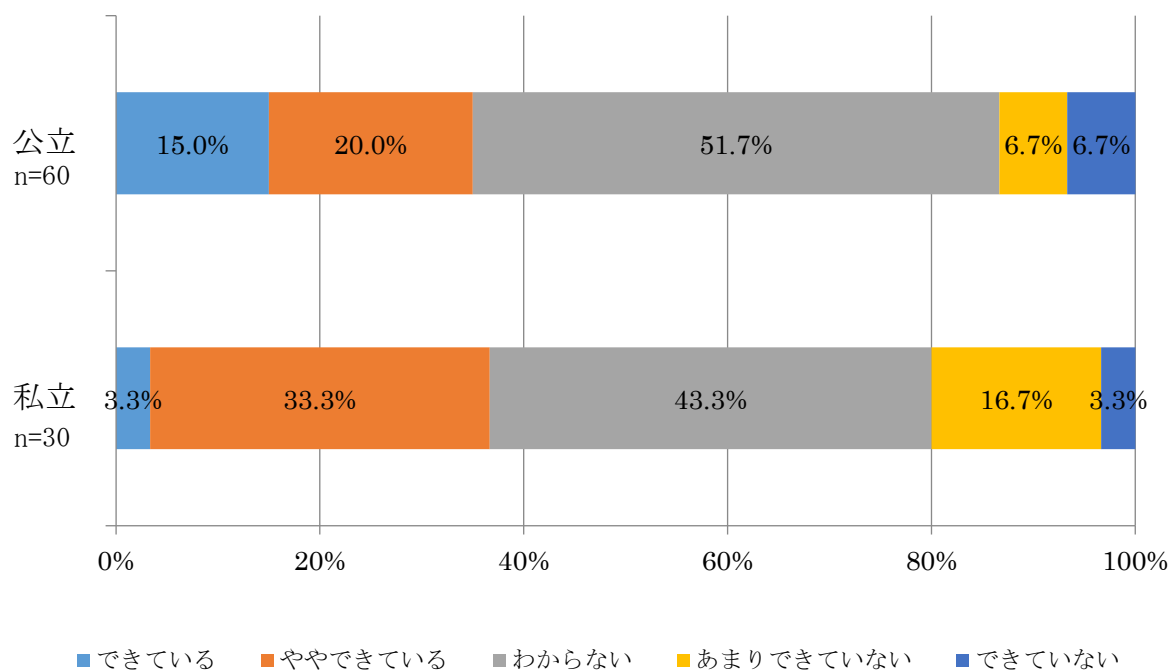
図 11. 公立・私立の種別と貧困の把握（クロス集計）



17. 公立・私立の種別と貧困への対応（クロス集計）

「公立・私立の種別」と「貧困世帯で育てられていると思われる園児を把握した際に、園として十分な対応ができていると思いますか」という設問をクロス集計したところ、公立では「できている」が15.0%、「ややできている」が20.0%、「わからない」が51.7%、「あまりできていない」、「できていない」がそれぞれ6.7%であった。一方、私立では「できている」が3.3%、「ややできている」が33.3%、「わからない」が43.3%、「あまりできていない」が16.7%、「できていない」が3.3%であった。

図 12. 公立・私立の種別と貧困への対応（クロス集計）



IV. 考察

長崎大学教育学部准教授 小西祐馬

1. 乳幼児の貧困は見えているか

「貧困世帯で育てられていると思われる園児はいますか」という問いに対して、「いる」という回答は保育士調査では 15.3%、施設長調査では 25.4%だった。この割合は、最新の「子どもの貧困率」13.9%、つまり「7人に1人の子どもが貧困」であることを踏まえると、低く感じられる。調査に回答した保育者たちが貧困をどのようなものとして捉えているか、どこまで実態を把握できているかが関係しているだろう。

おそらく、個人情報保護法の影響もあり、個々の家族の状況は見えづらくなっている。そのため、保育者が「貧困」と判断するには、子ども・親に、衣類、食事、発育・健康、費用の支払い等に明らかな困難・問題を見つけるしかない。いわゆる「絶対的貧困」は認識できるが、「相対的貧困」は「見えない」。「貧困」があるという回答が、保育士調査で 15.3%、施設長調査で 25.4%のみだったというのは、貧困が見えにくいことを示しているのではないか。貧困が「見えない」ということは、個別的な支援も届きにくい可能性がある。

しかし、自由記述欄には過酷な現実が描かれていた。「手元がびろびろになっていたり、シミが目立つが、その服を2日に1回のペースで頻繁に着ていたり、スタイ（食事中エプロン）がカビているにもかかわらず使い続けている」「夏の猛暑の中でもお風呂に入らず、体が汚れていたり臭いがきつい」「全身タバコのおい」「給食を飲むように食べ、おかわりを何度もしたがる」といった記述が 200 件以上あり、統計的な数値では見えてこない厳しい状況がうかがえた。保育者から見える子どもの貧困は、数としては少ないとしても、「絶対的貧困」といえるほどの水準にあるようで、早急な支援が必要であることを示唆している。保育者へのインタビュー調査や保育所における観察などから実態の具体的な把握が求められる。

2. 保育所における支援

貧困と認識したとしても、支援に結びつくとは限らない。「貧困世帯で育てられていると思われる園児を把握した際に、(担任として・園として)十分な対応ができていると思いますか」という項目では、「できている」「ややできている」の合計が保育士調査では 14.4%、施設長調査では 35.2%と少数で、「できていない」「あまりできていない」「わからない」という回答が多かった。保育所において支援を届けることができているという実感はあまりないようだ。

しかし、実感がないことと実際に支援ができているかどうかは別であり、保育所は「すべての子ども」の保育（支援）を通して、貧困にある子どもへの支援を行っていると言える。全ての子どもが同じ保育内容（遊び、体験、給食、養護など）を平等に味わえる保育所では、貧困世帯の子どもにとってかけがえのない場所であろう。実際に行っている保育・支援についても多数の記述が寄せられている。これらを整理し、すべての保育現場で共有していくことも重要だ。